

エフエム八ヶ岳番組審議会報告

エフエム八ヶ岳はリスナーの皆様のご意見を番組制作に反映させ、より良い番組づくりに努めております。放送内容について皆様からのご感想、ご意見をお待ちしております。今後の番組制作の資料とさせていただきますので、どうぞお気軽にお寄せください。

■2020年12月

エフエム八ヶ岳 12月の番組審議会の議題は、10月から始まった番組「未来の地球へ」(毎週金曜午前10時30分、再放送あり)です。2年半続けてきた番組のリニューアル版ですがアフターコロナ時代に向けて、英語教育に携わる女性、出版関係のヒカルランド社、アナスタシア・ジャパンといった分野の方々からのメッセージを送ってもらう形式になっています。放送内容について、審議委員6名の主な意見は次の通りです。

◇英語教育に携わる方の話について

- ・英語を通して世界の子どもたちに幸せになってほしいという思いが伝わってきた。
- ・英語は教育の一環ととらえがちだが、語学は人々を近づけるツールであること、未来を切り開くためには笑顔と勇気が大切という言葉がとても印象的だった。
- ・興味深く聞かせてもらった。現在の英語教育に一石を投ずる話で、「みんなが幸せになるよう語学は気持ちを添わせ、助ける、助けてもらう道具」であることを子どもたちに教えてほしい。

◇出版関係の方の話について

- ・興味深い題名の本が多く、機会があったら手にしたいと思った。
- ・一般常識にとらわれない考え方が大切であり、常識に疑問を持ち、メスを入れていくことは、このコロナ時代の苦しいときに考える参考になると感じた。
- ・農作物や植物を育てる人、あるいはこれから育てようとしている人が読んでみたくなるような出版物の話だった。
- ・「未来の情報発信、古代の中に未来の種がある」「滅びる未来、滅びない未来」といった言葉に象徴されるように、聞き手の受け取り方は分かれてしまうのではないか。

◇その他

- ・「未来の地球へ」というタイトルが大きく、広すぎてテーマを絞りにくい印象を持った。まず、足元を見つめてわかりやすいテーマを選んだほうがよいのではないだろうか。特にアフターコロナを見つめる番組にするためにも。
- ・コロナ後の新しい生活、新様式といったことが叫ばれ、またそういうテーマで語られることが最近多い。しかし一方で今までの顔を付き合わせての温かい世界の重要性もまた再認識している。そういう意味で、足元を見つめ直すテーマは必要なのではないだろうか。
- ・超常現象やスピリチュアル的な色彩を感じさせる内容があり、賛否が分かれるのではないか。そのあたりは気を付けて番組製作をする必要があるが、「未来の地球」をどのように見つめていくかを軸に、さまざまな視点から冷静に聞いていく姿勢が必要だと思った。